



文部科学省 平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」

TKK3大学連携プロジェクト

防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開



**S**ocial **S**ervice **A**ctivities **S**upport **S**pecialist

**社**会貢献活動支援士



必要なのは、あなたのチカラ。

# はじめに ～今、なぜ「社会貢献活動支援士」なのか？～

## 社会の要請

私たちは、市民として、社会や国家を形成しています。つまり、個人の権利を主張するだけでなく、他の人や社会のために貢献する義務があるのです。いや、それ以前に私たちは人間として自然や人を愛する心、正しく生きようとする良心を持っています。

現代社会は、目まぐるしく変化するため、これまでにない様々な問題が次々と顕在化しています。もはや、競争原理だけでは解決できない、また国家や行政だけではカバーしきれない状態になっています。このような社会の中で、必要となるのが「分かち合い」の心です。利害関係を抜きにして、自分のことも他の人のことも大切にしながら「Win-Winの社会」を作り上げていける公共意識の高い人材が求められているのです。

特にわが国は、地震や台風をはじめ大規模災害の危険性の高い国です。阪神・淡路大震災でもわかったように非常時には「共助」が重要になります。平常時のみならず、災害発生時などの非常時にも適切に支援活動ができる人材の育成が望まれています。



## 3大学による人材育成

このような現状を総合的に鑑み、東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学はTKK3大学連携プロジェクト「防災・



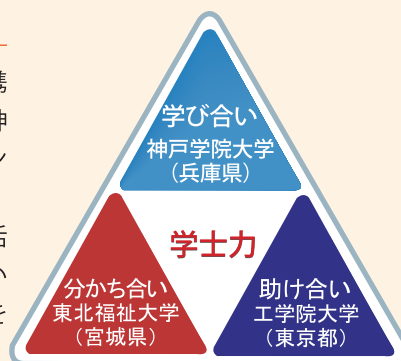
減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開」をスタートしました。その取組のひとつとして「社会貢献(防災・減災、ボランティア、環境、国際協力等)」のための専門カリキュラムを3大学共同で開発し、災害やボランティアの現場をリードする人材を育成します。

専門知識のみならず、実習や演習を通じて、社会に貢献するマインドと能力を持ち、また、自らテーマを設定し、プロジェクトを立ち上げ、それを実行していく人間力を持つ人材を育成・輩出することを目的としています。



## TKK3大学連携プロジェクトとは？

平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」として、東北福祉大学(T)・工学院大学(K)と神戸学院大学(K)の3大学連携プロジェクト「防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開」が選定されました。本プロジェクトを通して、3大学の特長を持ち寄り、社会貢献活動を担う人材育成を目指します。プロジェクトに関する詳しい説明は、Webサイト <http://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk/> をご覧ください。





# 社

## 社会貢献活動支援士(SSASS)とは？

### 目指す人材像 ～平常時・非常時(災害時)、いかなる状況下でも活躍できる人材～

「社会貢献活動支援士(SSASS: Social Service Activities Support Specialist)」とは、社会貢献、防災・減災、ボランティア、福祉、環境等の専門知識を身につけ、災害やボランティアの現場でリーダーシップを取り活動することができる人材であることを認定する制度です。

社会貢献の場は、日常の生活や社会・組織の中にたくさんあります。社会貢献活動を行う人は、平常時にはそれぞれの専門的知識と能力を生かし、それぞれの持ち場で活動しています。しかし平常時のみならず、災害発生時など緊急事態が生じたときにも、防災・減災等の知識やスキル、ネットワークを活かしてリーダーシップをとり災害の現場で活躍できる人が、社会貢献活動を遂行できる人材と言えるのではないのでしょうか。

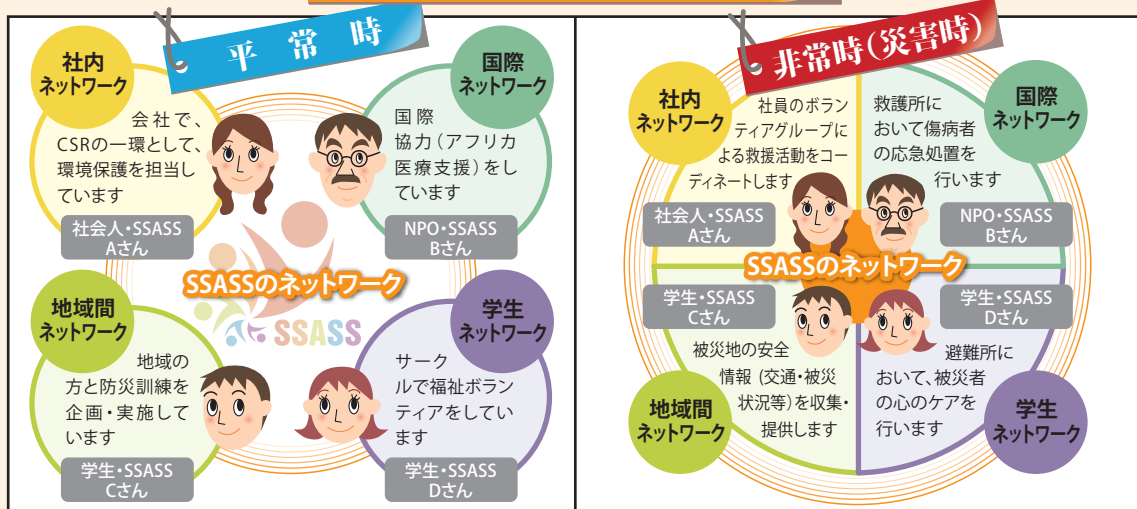
「社会貢献活動支援士」に求められるのは、平常時に活動する各分野の専門的知識のほか、コミュニケーション能力・現状把握能力・企画力・プレゼンテーション能力・ブ

ロジェクト実行能力など多岐に渡り、これら能力は平常時での本来の業務の中でも、また災害時の現場においても必要とされるものです。

このように、私たちが目指す「社会貢献活動支援士」とは、平常時と災害時いかなる状況下でも、知識や能力、ネットワークを活用してリーダーシップを発揮し、活躍できる人材です。



### 社会貢献活動支援士のイメージ



**平常時**  
それぞれの専門的知識と能力を活かしながら、それぞれの持ち場・ネットワークで活動をしている。定期的に SSASS 同士の交流(防災訓練、ネットワーク構築、情報共有等)も行う。

**非常時(災害時)**  
それぞれの専門的知識、非常時に必要な知識、能力、ネットワーク、そして日常的に構築してきた SSASS のネットワークも活かしながら、現場をリードする。

# 社

# 社会貢献活動支援士(SSASS)になるには？

## 認定基準について

社会貢献活動支援士になるためには、TKK3大学学生の場合、専門カリキュラムを履修し、所定の単位を取得後、社会貢献学会が実施する認定試験に合格することで資格認定されます。

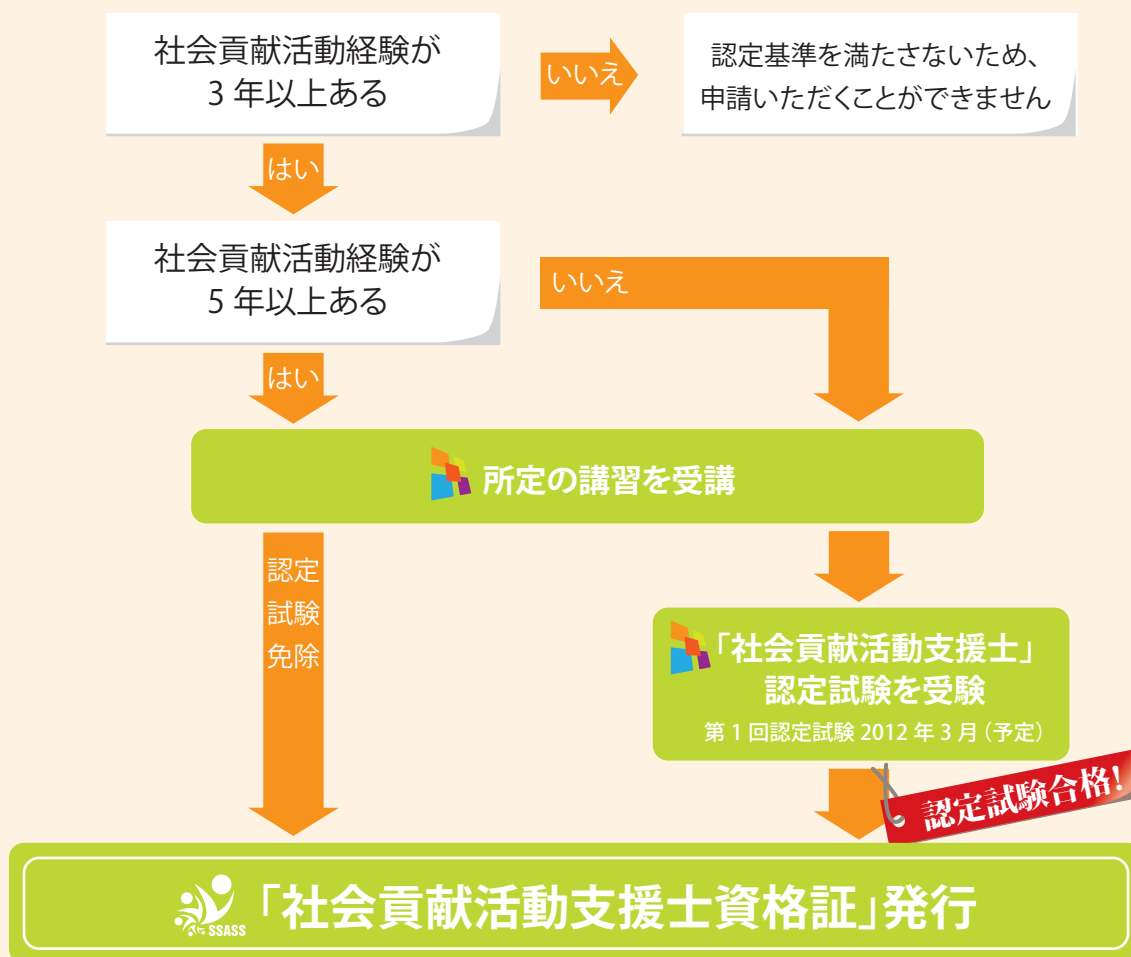
以下①と②の両方に該当する市民の方は、経験年数によって異なる認定基準により、資格認定されます。

- ①学会が認定する3年以上の社会貢献活動経験を有する方
- ②社会貢献活動支援士の活動理念の1つである共助の精神を理解し、地域または事業所において積極的に防災・減災、ボランティア活動等を推進する意志をお持ちの方

### 【経験年数と認定基準について】

社会貢献活動経験年数により、認定試験が免除されます。詳しくは、裏面の問い合わせ先へご相談ください。

- 経験年数が3年以上5年未満：所定の講習を受講し、かつ社会貢献活動支援士認定試験に合格する必要があります
- 経験年数が5年以上：所定の講習を受講する必要があります(認定試験は免除)
- その他、社会貢献学会の推薦を受けた場合は、講習および認定試験は免除されます



## 所定の講習について

講習は、社会貢献活動支援士(SSASS)の理念や資格制度などの枠組み、求められる使命や役割について理解いただくとともに、SSASSとして必要な知識や技術を習得することを目的として実施します。認定試験と同日同会場で講習を実施しますので、SSASSに申込後自宅に郵送される公式テキストを各自十分学習をしてから講習に臨んでください。

【受講料】10,000円(公式テキスト代含む)

【講習内容(5時間程度)】①SSASSの資格制度、使命や役割について、②公式テキストに沿った講義・ワークショップなど

## 受験料、登録料などの費用について

社会貢献活動支援士(SSASS)にかかる費用は、以下のとおりです。

### 【受験時】

- 講習受講料：10,000円(公式テキスト代含む)
- 認定試験受験料：3,000円

### 【資格認定後】

- 登録料：3,000円
  - 学会費：年額1,000円～5,000円(会員種別による)
    - 市民会員：年額1,000円、学生会員：年額1,000円、正会員：年額5,000円
- すべての社会貢献活動支援士(SSASS)の方には、社会貢献学会へ入会していただきます。ただし、会員の種別は問いません。
- ※会員種別については、p.7「認定機関「社会貢献学会」について」をご参照ください。

## 資格の更新について(ポイント更新制)

資格の有効期限は、3年間です。資格取得後も社会貢献活動支援士(SSASS)として必要な資質能力が保持されるよう、本資格はポイント更新制をとっています。

ポイント更新制とは、学会の認定する活動(講習会、イベント、ワークショップ、社会貢献学会大会等への参加)に対してポイントを付与し、10ポイントを貯めると資格を更新できる、というシステムです。このポイント更新制により、SSASSネットワークの交流を促進し、また個々の定期的な知識とスキルの刷新を図ることを目指します。



※ポイント数は、実際の活動の種類・期間・内容により異なります。最新のイベント情報は会報やウェブサイト等にて告知します。

## 資格に関する最新情報は・・・

社会貢献活動支援士の資格について、認定試験や講習の実施要綱や申込方法等についての最新情報は、随時ウェブサイトへアップします。ウェブサイト(<http://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk>)をご確認いただくか、もしくは裏表紙の問い合わせ先にご連絡ください。



# 期待の声、コメント

## 行政の声 田脇 正一さん (仙台市消防局防災安全部防災安全課 計画係長)

いざと言うときに命を守るためには、正確な災害情報の収集と経験に裏付けられた的確な行動が必要になります。

しかし、専門機関から出される様々な情報は量も多く、専門用語が使われ理解しにくいことも事実です。報道機関、市町村はこの情報を単に伝達するのではなく、内容を意識し住民の皆様にお伝えしている訳ですが、より住民の皆様に近いところで、その役割を担って頂ける方が必要になっています。

また、的確な行動のためには、それらの行動を平常時に経験しておくことが必要になります。そのため、防災関係機関ではたゆまない訓練を積み重ねていますが、同じく住民の皆様に近いところで、一緒に訓練を企画・実行して頂ける人材が必要になっています。防災・減災分野で社会貢献活動支援士の皆様に、これらの役割を担って頂くことを期待しています。



## 実践者の声 国崎 信江さん (危機管理教育研究所 代表)

「災害を乗り越えるにはさまざまな視点・知識・能力が必要である」これは、私自身が生活者の視点で防災を実践し、減災のための講演活動やメディア等への情報提供、災害ボランティアや福祉活動をする中で得た確信です。大規模な災害が発生すれば、さまざまな立場の人が被災するのですから、日ごろの専門知識や経験が役に立つことは言うまでもありません。しかし災害時に自分が何をすべきかを知らなければ、その役割を果たすことはできません。つまり、平時の活動のなかで災害発生時の被害を想定し細部にまで配慮した準備をしておく必要があります。このことにいち早く気づき社会貢献活動支援士を目指す皆様には、その知識と経験さらには強い信念をもって災害の実践に役立つリーダー的存在として活躍されることを期待しています。



## 実践者の声 小山 達也さん (UNDAC:国連災害評価調整チーム)

「UNDAC(国連災害評価調整チーム)」をご存じでしょうか。大規模災害の被災現場に駆けつけ、必要な支援の内容を国際社会に呼びかけたり、被災国に投入される世界各国の国際支援部隊の活動場所や活動内容を調整するための国連契約職員です。国連からの報酬は年間たった1ドル。それすら、支給されたことはありませんから、被災者の笑顔だけが報酬です。被災現場では「人の命をいかに守るか、教える命をいかに救うか」が世界の共通の目的です。このため、救助、土木、医療、物流、環境、福祉、食料、衛生といった様々な分野の皆さんが、得意分野の知恵や技術、物資を持ち寄り、適切な調整のもと、総合的に対応することで事態の改善を図っています。世界では、現状を迅速・正確に把握し、将来の被害の広がりを予測しつつ、判断、対応出来る人材が世界で求められています。「いかなる状況下でも活躍出来る人材」社会貢献活動支援士の広がりに期待しています。世界の被災地だけでなく、災害予防の場面でも、共に活動出来る日を心待ちにしています！



## 企業の声 村上 仁さん (株)日立東日本ソリューションズ社会貢献推進室)

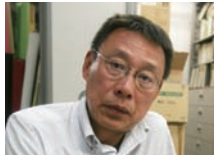
当社は、仙台を本拠地とする企業市民として「教育」「環境」「防災」の3分野において、知識とIT技術など、持てる資源を最大限に活用し、社会貢献活動に取り組んでおります。特に「防災」については自社HPにおいて、誰でも気軽に利用できる「室内危険度診断システム」と「住家簡易被害診断ツール」を無料公開しております(※)。さて、この度の社会貢献活動支援士の制度化は、教育機関・NPO等の市民・企業・自治体という4つの車輪がTKK3大学連携プロジェクトという強力なエンジンを核に強力に繋がり、平時はもちろん、災害時等の非常時という悪路も走破できる強固なネットワーク作りを実現するために必須であると考えます。本制度構築が、「公共意識の高い人材」育成を推し進め、社会の要請である「Win-Winな社会」の実現に大きく貢献するものと大いに期待しております。(※)北海道大学工学部環境社会工学科 岡田幸夫教授の研究成果を、当社が技術ライセンス供与を受けWeb化



## メディアの声 安富 信さん (大阪読売サービス株式会社編集制作本部部长)

読売新聞大阪本社で記者として長らく防災・減災を担当し、神戸学院大学の防災・社会貢献ユニットの授業のお手伝いをさせていただいています。学生さんたちの減災、ボランティアにかけられる熱心なまなざしを目の当たりにし、ぜひこの情熱を何かの形に表すことが出来ないか、と思っていたところ、社会貢献活動支援士創設の話聞き、とても素晴らしいことだと感じ入りました。

近い将来必ず襲って来る大地震や、毎年のように頻発する水害、新型インフルエンザなどの感染症など、私たちが取り巻く「危機」は枚挙にいとまがありません。そうした現場でリーダーシップを取れる人材は必須でしょう。一人でも多くの若者たちがこの資格を取得し、日本だけでなく海外の現場でも活躍されることを大いに期待します。



## メディアの声 根本 宣彦さん (東北放送アナウンス部)

私は、仙台のTBC東北放送でラジオの朝ワイド、日曜の防災番組を担当しているほか、毎年6月の県民防災の日前後には、1時間規模の防災特番も制作しています。常に特番のテーマとなるのが、平均37年周期で発生するマグニチュード7.5クラスのプレート境界型地震「宮城県沖地震」です。前回の地震から今年で32年が経過、30年以内の発生確率は99%と極めて切迫した状況にあり、行政機関や企業、地域による防災・減災への取り組みが急務となっています。そこで必要とされるのが、防災分野のスペシャリストです。防災・減災、社会貢献や環境などの専門的知識と能力を身につけ、災害やボランティアの現場でリーダーシップを取り活動する「社会貢献活動支援士」こそ、いま各方面から求められる人材と言えるでしょう。今後の幅広い分野での活躍に期待します。



## NPOの声 中村 順子さん (NPOコミュニティサポートセンター神戸 理事長)

非常時に必要な3つの力をあげるとするならば、想像力・行動力・連携力(ネットワーク力)でしょうか。被災者の心身状況に思いを致す想像力、その想像力がモチベーションとなって行動に結びつき、専門性のみでは対応し難い複合課題を連携力によって瞬時に解決に導くこと、これこそ阪神淡路大震災の教訓です。しかし残念ながら縦割構造や個人情報の壁をこえられず、防災・福祉・高齢者ケア・こども支援・環境保全等、身近な生活課題でさえも横のつながりが希薄で課題がたらい回しにされる現状です。そこに登場した「社会貢献活動支援士」は、複合ニーズを総合的に対応する能力を養成するもので、このようなリーダーこそ日常が求め、非常時に大活躍出来る人材なのです。まずは、災害列島日本で地域活動に関わる皆さんに受講いただきたいと思います。



## 地域の声 今井 数真さん (八王子市中野町甲和会 防災計画常任委員)

近所付き合いの少ない社会情勢でもあり「ご高齢の方を大切に地域のネットワークづくり」として「さくらんぼの会」を発足させ、日々の傾聴などのボランティア活動でご高齢の方と接することが、ご高齢者の自立へ少しでも手助けとなり「緊急時の避難支援」に役立つものと考えた、町会の「災害時要援護者への支援体制」に取組んでいます。地域の多くの方が「助け合うまちづくり」に向けた諸活動を行う風土になれば「災害にも強いまち」となり、もしもの災害時には、住民が自発的に助け合い「地域のために自分たちが動く」ことで、減災や避難生活を営むうえでも効果が大きいと考えます。その社会形成の基である地域のまちづくりに、幅広く高度な技能と情報、人材のネットワークを有される社会貢献活動支援士には、私達の近くで、その地域に合った支援と活動を期待しています。





## 定機関「社会貢献学会」について

### 「社会貢献学会」とは？

社会貢献活動支援士(SSASS)の資格は、社会貢献学会が認定します。

本学会は資格認定のほか、社会貢献学の研究の向上と発展につとめ、研究に基づいて教育や普及啓発等を実践し、市民とともに活動することでその成果を社会へ還元することを目指します。

具体的には、市民活動(社会貢献、防災・減災、ボランティアなど)の実践や啓発、教育、環境づくりを推進することや、大学や行政、企業、ボランティア・NPO団体、市民、防災関係機関、メディア関係者らとともに、情報交換やネットワーキングを活発に行なっています。市民・研究者・行政関係者らが「社会貢献」について共に考え実行する、新しい形の市民学会です。



### 「社会貢献学会」の主な活動内容

- 研究活動：社会貢献学、防災・減災、ボランティア活動、環境、福祉、国際協力等に関する学術的調査研究、会員の研究発表や講演会等の開催、会員の研究上の交流や協力促進、機関紙や出版物の刊行
- 実践活動：市民と協働で社会貢献活動の実践、社会貢献の講習会・イベント・ワークショップ等の情報提供、会員同士のネットワーク活性化に向けた環境づくり
- 教育・啓発活動：社会貢献活動支援士の資格策定や資格講習会・認定試験の企画・実施・資格認定、市民向けフォーラム等の開催、講師紹介派遣(社会貢献を実践するSSASS会員を、要請に応じて講演会講師として紹介・派遣)
- 評価活動：企業など団体のCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)の取り組みの評価・認証等

### 会員種別について

- 市民会員：広く社会貢献活動(防災・減災、ボランティア活動、環境、国際協力等)に関心を有する方が対象です。
- 学生会員：社会貢献学や社会貢献活動に関心を有する学生が対象です。
- 正会員：主に社会貢献学や社会貢献活動に関する研究に従事する方や、社会貢献活動に携わる方が対象です。

#### 会員が受けることのできるサービス(※一例)

- 1 定期的に情報誌(会報等)が届きます
- 2 講習会や研修会等に会員割引で優先的に参加することができます(※対象とならない講習会等もあります)
- 3 社会貢献に関する講演会や授業における講師紹介派遣サービスを受けることができます
- 4 会報や学会ウェブサイト(準備中)に、所属する団体等のイベント・フォーラム・スタディーツアー等の情報を掲載することができます

※市民会員は、学会総会での議決権がなく、また研究論文の発表および投稿ができません。



### あなたの企業・団体における CSR(企業の社会的責任)の取り組みを評価・認証します

社会貢献学会は、企業などの団体におけるCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)のうち、特に企業の「社会貢献的責任」の取り組みやレポートの総合的な評価・認証を行います。

社会貢献の研究者や専門家による調査研究から開発した審査基準に加え、市民の視点も重要視し、公平かつ客観的な評価・認証を行なうことで、CSRの取り組みやレポートの信頼性向上に貢献することを目指します。

## TKK 分かち合い連携センター

(東北福祉大学 国見キャンパス 学生生活支援センター内)

- JR仙山線「東北福祉大前」駅下車、徒歩 5分
- 仙台市営バス「東北福祉大前」バス停下車
- JR仙台駅前24番バス停 県庁市役所・輪王寺前  
経由 北山→子平町循環 約26分
- JR仙台駅前25番バス停 青葉通・大学病院経由  
子平町→北山循環 約25分

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1丁目8番1号  
TEL:022-207-1804(直通) FAX:022-717-0606



## TKK 助け合い連携センター

(工学院大学 新宿キャンパス 6階)

- JR「新宿」駅下車、西口より徒歩 5分
- 京王線、小田急線、地下鉄各線「新宿」駅下車、  
徒歩 5分
- 都営大江戸線「都庁前」駅下車、徒歩3分
- 西武新宿線「西武新宿」駅下車、徒歩10分

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2  
TEL:03-3340-0167(直通) FAX:03-3340-0954

— 地上ルート  
- - - 地下ルート



## TKK 学び合い連携センター

(神戸学院大学ポートアイランドキャンパス B号館3階)

- JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神・地下鉄「三宮」駅より、  
神戸新交通ポートライナー「市民病院前」駅下車  
西へ徒歩 6分

〒650-8586  
兵庫県神戸市中央区港島1-1-3  
TEL:078-974-4569(直通) FAX:078-974-2549

